

事例報告

職員の国際化への取り組み ～立教学院職員短期海外視察研修の紹介～

図書館学術資料課 高橋 亜弓

「立教学院職員短期海外視察研修」は本学職員を対象とし、2018年度に4回目を実施された研修である。名前通り、海外大学等の視察がメインとなるが、視察で見識を深めることのみが成果ではない。半年以上を掛けて学んだことは本学を支える職員としての成長にもつながる。私にとって、本研修に参加したことは職員としての一つの転機であったとともに、そこでの学びや共に受講した同僚とのチームワークは仕事をするにあたっての財産となっている。

2014年度に受講者、そして2018年度に引率者として2度研修に参加したこともあり、このような執筆の機会をいただいたので、「立教学院職員短期海外視察研修」について、自らの経験をもとに紹介させていただきたい。職員の国際化への取り組みの一つとしてご一読いただけると幸いである。

「立教学院職員短期海外視察研修」の目的

本学では国際化を進めており、その中で「国際化に対応できる事務組織体制の構築」と「職員の外国語運用能力の向上」の2点が職員組織の課題として挙げられていた。この課題の解決策の一つとして、前年度の検討を経て2014年度より開始となったのが本研修であり、「海外の学校の視察を通して、学院組織の中核を担う職員としての見識を広め、職員としての資質の向上を図る機会とする。あわせて、職員の国際業務遂行能力を向上させ、本学院の国際化を推進する基盤を作る。また、本研修の実施により、海外の学校職員との交流、海外の学校との関係づくりを目指す」ことを目的としている。なお、職員の国際化対応力の強化は本学の国際化戦略「Rikkyo Global 24」の取り組みにおいても挙げられている。

本学の研修制度や実現に至る流れについては、「大学時報」に掲載された記事を参照されたい¹⁾²⁾。

研修のスケジュール

まずは、「立教学院職員短期海外視察研修」の全体像を紹介したい。本研修は視察だけではなく、その前後のプログラムも通して一つの研修となっている。こちらが、

2018 年度のスケジュールである。

3 月：オリエンテーション

4 月：国内短期留学プログラムオリエンテーション、学校実務英語プログラム①

5 月：学内 TOEIC テスト受験、学校実務英語プログラム②、日本の高等教育政策・制度と立教に関する講義

6 月：国内短期留学プログラム（5 泊 6 日）、海外の高等教育政策・制度に関する講義、2018 Special Program ①

7 月：学校実務英語プログラム③、2018 Special Program ②

8 月：学校実務英語プログラム④、出発前準備、米国現地視察プログラム（10 泊 11 日、ケント州立大学、コロンビア大学、フォードム大学）、振り返り・報告会準備

9 月：学内 TOEIC テスト受験、短期海外視察研修報告会

10 月：報告書提出

※翌年度は、研修修了者による国際化に向けた取り組み「R プログラム」を主催。

このように海外視察をメインとしてはいるが、その前後にもかなり多くのプログラムが組まれている。

部署や世代を超えて集まる研修参加者

内容紹介の前にお伝えしたいのは、参加者は担当業務、英語のレベル、国際的な業務に携わっているか否かもさまざまであるということである。本研修ではそのような参加者が 1 つのチームとなり、共に学んでいく。

ではさっそく、具体的な研修内容の紹介に移りたい。まずはオリエンテーションが行われる。受講が昇格要件となっている職級・年代はあるが、自分の前後数年に入職した先輩・後輩、任意参加者とも一緒になるので、最初のオリエンテーションは意外と緊張するものである。今後の研修内容を聞き、ここで初めて参加者全員が顔を合わせることとなる。

その後は、外部講師による電話や e メール対応、コミュニケーション方法に関する講義「学校実務英語プログラム」や学内 TOEIC テスト受験、日本の高等教育政策・制度や立教について学ばなどして、順々に進んでいく。受講後すぐに英語が流ちょうに話せるようになるわけではないが、日常業務で使う可能性のある表現を学んだり、作文をしたりすることで、英語でコミュニケーションを取ることにに対するハードルが少しずつ下がっていった。また入職直後の研修で学んでいた日本の高等教育や立教について、数年の業務経験を経て学び直すことは、日々の業務に邁進している中で近視眼的になりがちな視野を広め、自分たちが従事している世界に関する認識を深めてくれるものであった。担当業務が異なる者が集まり、共に学ぶことは互いの部署の考え方や状況への理解する機会にもなった。

5 日間の国内短期「留学」

6 月初旬、本研修の一つ目の山場となる「国内短期留学プログラム」が国際大学 (International University of Japan、以下 IUJ) で行われる。グローバルマインドの醸成、多文化理解、異文化コミュニケーション、英語での会議の進め方や議論・プレゼンテーションの方法を学ぶため、新潟県南魚沼市にある約 60 カ国・地域出身の留学生在が学ぶ大学院大学で受講する合宿型の研修である。本学でも留学生は増えており、2018 年 10 月 20 日時点で 603 名が学部、370 名が大学院に在籍しているが、IUJ を訪問して驚くのは留学生が 9 割以上を占める環境だ。プログラムの期間中、留学生はファシリテーターとしてわれわれをサポートしてくれる。

このプログラムは Rikkyo Intensive English Program (RIEP) という名称で行われ、研修期間のスケジュールは表 1 の通り、Business Communication、Presentation、Cross-Cultural Communication、Socializing、Organizational Behavior など、授業漬けの 5 日間である。

	6/4	6/5	6/6	6/7	6/8
8:50-10:20	Business Communication	Business Communication	Business Communication	Business Communication	Presentation Rehearsal
10:30-12:00	Business Communication	Presentation	Presentation	Presentation	Presentation Practice
	Lunch	Lunch	Lunch	Lunch	Lunch
13:00-14:30	Presentation	Socializing	Organizational Behavior I	Organizational Behavior II	Final Presentations
14:40-16:10	Cross-Cultural Communication	Socializing	Organizational Behavior I	Organizational Behavior II	Final Presentations
16:20-17:50	Cross-Cultural Communication	Socializing	Business Communication	Cross-Cultural Communication presentation	Farewell Party
18:00-	Welcome Party	dinner	Dinner Party With IUJ students	dinner	
19:00-20:00	Interview IUJ facilitators for CCC presentation	Interview IUJ facilitators for CCC presentation	Prepare for CCC presentation	Presentations Preparation	

表 1 2018 年度 RIEP (Rikkyo Intensive English Program) スケジュール

基本的にコミュニケーションは英語で取り、最終日のプレゼンテーションに向けて夜中まで課題に追われる毎日。非日常的な環境に刺激を受け一方、睡眠不足も重なり、なかなかきつい状況でもある。

しかし、ここで大きな救いとなるのが IUJ の教員やスタッフ、ファシリテーターの方々の温かいサポートである。私たちの英語が拙くても最後まで聞いてくれる姿勢、そして効果的に学べるような前向きなサポート体制からは、本当に大きなものを学んだ。英語

でのコミュニケーション力が向上しただけでなく、職場を離れて慣れない環境で学ぶこと自体も貴重な経験であった。そして、参加者間で励まし、助け合い、共に努力しながら完走することで、チームワークも生まれてくる。

最終日のプレゼンテーションは、2014 年度は「立教の魅力的な点」、2018 年度は「自分の所属部署が立教に対して貢献していること」がテーマであった。自身が発表する際の準備や他の参加者の発表を聞くことにより、自分が知らなかった立教の姿について知ることができるのは、本来の目的とは少し離れるが、さまざまな部署の者が共に学ぶ大きな意義ではないだろうか。

私が IUJ での研修に参加したのは 2014 年度のみであるが、2018 年度の参加者も英語への苦手意識が払拭・改善され、自分の考えを伝えることや世界や日本のことを知る努力を続けることの大切さを学んだということであった。IUJ という環境に「留学」することで、英語でのコミュニケーション方法を知り積極的に交流をしようという姿勢が身に付くと共に、国際化を進める上で大切なことも身をもって学ぶことができた。



最終プレゼンテーション後、IUJ の皆さんと（2014 年 6 月）

視察に向けての準備と学内での国際交流

英語でのコミュニケーションにも慣れ、チームワークも醸成されてきた 6 月中旬以降、海外視察に向けての準備が本格化する。2014 年度はアメリカを中心とした海外の高等教育制度に関する講義や「学校実務英語プログラム」のほか、参加者間で分担し各大学の概要を本学と比較しながらまとめたり、視察先に近い業務を担当している本学の部署の状況を調査したりもした。それから 4 年が経った 2018 年度は、さらに進化した内容であった。2018 Special Program としてグローバル教育センターが受け入れている香港大学からのインターン生との交流が実施されたのである。インターン生による香港の教育政策・制度についてのプレゼンテーションを聞き、参加者が IUJ での最終プ

プレゼンテーションを再現するというのが初回。そして、2 回目は本学を PR するという課題に対するインターン生の報告を聞き、アドバイスを伝えるというものであった。聞きとるのが難しいほどの速さの英語で行われるインターン生の発表にどのように付いていくか、自分の意見をどう伝えたらよいか、などアメリカ視察でのミーティングを前に自らの課題を実感しつつ、本学が行っている国際交流プログラムに触れる貴重な機会でもあった。その他、現地で訪問したい部署の検討、視察先でのミーティングを想定した「学校実務英語プログラム」など、以前よりさらに能動的な準備ができるようになっていると感じた。

いよいよ本番！アメリカでの視察

ここでは、2018 年度の経験をもとに紹介させていただく。準備は足りているか、本当に視察先でのミーティングに付いていけるかという不安、そしていよいよ出国という期待を胸に集合し、出発である。最初の訪問先・オハイオ州にあるケント州立大学へは直行便がなく、乗り継ぎの時間も非常に短く困難であった。最終目的地の空港に辿り着き、迎えに来てくださっている車でケント州立大学に着くと 23 時近くである。そのような時間でも、先方の受入ご担当であるサラ・マルコムさんは笑顔で迎えてくださり、本当にありがたい気持ちとなった。自分がホストとなった際にはこうしたい、というお手本である。

翌日からは早速ミーティングが始まる。表 2 にある通り、数多くのミーティングを設けていただいた。またケント州立大学での研修実施は 2014 年度に引き続き、2 回目ということもあり、今回から Individual Meeting という個別訪問と最終プレゼンテーションが追加された。

ミーティングの流れを紹介すると、まずは本学から訪問の目的を説明、先方スタッフの方から業務内容の紹介、そしてそれを受けて本学参加者からの質問、となっている。…と書いたが、すべて英語でこなすのは容易ではない。参加者全員で力を合わせて臨むのだが、具体的にはこのように乗り越えた。本学からの目的は、引率者である自分が英訳したものを頭に入れておき、説明。併せて、可能な限り多くのことを学ぶためにミーティングの途中で参加者間の理解共有の時間をいただけるよう依頼する。そしてミーティング中は、英語の得意な参加者に不足分の情報を補足してもらいつつ、分かる限りで日本語訳を行う。他の参加者は自分で書きとめたメモと訳された内容を確認しつつ、理解を深める。先方の説明後は、各自が聞きたいことを質問するのであるが、うまく質問ができないときには日本語で共有し、他の参加者がフォローするなどした。訪問先の部署の方々は丁寧に説明し、われわれの質問にも真摯に対応してくださった。言葉の壁はあるものの、双方に共通する課題を認識し、先方の取り組みから刺激を受けたり、本学に置き換えて考えたり、見識は大いに広がった。Individual Meeting では苦戦しながらも各自がミーティングをこなし、最終プレゼンテーションでは本学の状況を先方と

比較しつつ、お礼の気持ちも込めて学んだことを発表した。また初日には協定 20 周年を祝うレセプション、最終日には歓送セレモニーも開いていただき、忘れられない滞りとなった。

その後はニューヨークに渡り、コロンビア大学では国際教育に関するアメリカの状況と先方の対応、留学生を担当する部署のスタッフの方の仕事とご自身の国際経験に関す

	8/7Tue	8/8Wed	8/9Thu	8/10Fri	8/13Mon	8/14Tue
	Kent State				Columbia	Fordham
AM	Welcome & Overview of Office of Global Education Introduction to the ESL Center	Tour of One Stop Guide tour of the KSU Museum Sharing Best Practice for Student Engagement Individual Meetings	Meet with the Alumni Association Tour of the Library Career Exploration & Development	Preparation for Final Presentation	Breakfast at Faculty house International Education American Experiences of Life in Japan An overview of Columbia University	Lincoln Center Information Session Campus Tour
lunch	Final Presentation					
PM	Tour of Campus Dinner and 20 th Anniversary Recognition	Individual Meetings Tour of LGBTQ Center & Best Practice Overview Okulahoma! At the Porthouse Theatre	Student Success Programs, Orientation & Leadership Tour of May 4 th Visitors Center	Farewell Ceremony	International Services Teachers College Campus Tour	Dinner 8/15Wed 帰国

表 2 2018 年度アメリカ視察スケジュール



コロンビア大学でのミーティング (2018 年 8 月)

る講義などを受け、意見交換を行った。フォーダム大学では受験生用説明会とキャンパスツアーに参加し、アピールの仕方などを学びと共に留学する学生が必要とされる語学レベルを体感する機会となった。

アメリカ視察では、見識を広める以外にも多くの学びがあった。文化の異なる国で過ごす中で訪問先の文化を学ぶ大切さも感じ、何より教職員の方の働き方や専門性、取り組みなどお手本にすることを数多く学んだ。その一方、立教に置き換えて考え、本学の姿を改めて知ることもあった。また、国は違っている、仕事をしていく上で誠実な対応や信頼関係は何より大切であり、言語が完璧でなくても伝わるものがあるということも実感する日々であった。

研修参加は最初の一步 ～国際化への道～

海外視察を終えると、現地で感じたことを共有する事後研修のあと、グループとしての経験・学びを発表する報告会が行われ、学内 TOEIC テスト受験・報告書提出をもって修了となる。本稿ですべてを伝えるのは難しいが、個人、そしてグループとしても、本当に多くのことを学んだ。しかし、修了して終わりではない。研修への参加をきっかけに、参加者一人ひとりが本学の国際化を推進する基盤となっていくことが重要である。

本学では、2015 年度より R-Cap (Rikkyo Cross-functional Active Project) という部署横断的なプロジェクト型業務を実施しており、研修の翌年度は、修了者を中心に国際化プロジェクト「R プログラム」を行うこととなっている。2014 年度の参加者では、学内で開催される留学生とバディ学生の顔合わせに参加し制作した動画を上映したり、留学する学生を対象とした立教に関するクイズ大会や留学生を対象とした剣道体験を開催したりした。R プログラムのほか、留学希望者からの相談を受ける入学アドバイザーとして海外留学フェアに参加した者もいる。また

立教大学グローバルラウンジ主催 日本文化体験教室
協力：立教大学体育会剣道部、立教大学「職員海外視察研修」参加者有志

Japanese Cultural Seminar Series

留学生のための **剣道体験**
KENDO Workshop
for International Students

日本古来の武道である剣道は、古武術の一つである剣術が競技化されて生まれました。現在では世界各地に多くの愛好者を持つ国際的な競技スポーツとして発展しています。今回は立教大学体育会剣道部の協力を得て、外国人留学生のための剣道体験教室を開催します。ご関心のある方は奮ってご参加ください！

Kendo is a Japanese martial arts that was derived from the traditional Japanese swordsmanship. It has now become an international sports with growing number of players worldwide. Global Lounge will organize Kendo workshop for international students with the assistance of the Rikkyo University kendo team. Please join us for this opportunity to learn the way of samurai!

日時: 2015年12月12日(土) 14:00~15:30
Date & Time: Saturday, December 12, 2015 2:00~3:30 p.m.

会場: 新座キャンパス 体育館1階アリーナ
Venue: E Arena, Niza Campus Gymnasium (Ground Floor)

定員: 30名 Limited to 30 participants
***参加には事前登録要 Advanced registration required**

注意:

- ▶当日は運動に適した服装で参加すること。
- ▶素足での運動となるため、足のはき物は事前に切っておくこと。
- ▶登録には新座キャンパス体育館1階のロッカー室を使用すること。
- ▶貴重品の管理には注意し、必ずロッカー入室入前における貴重品のロッカーを使用すること。

Remarks:

- ▶ All participants must wear appropriate sporting clothes.
- ▶ Since the participants need to exercise barefoot, it is strongly advised to trim toenails before the event.
- ▶ Participants can use the locker rooms on the ground floor of the Niza Gymnasium. Valuables must be stored in safety boxes located near the entrance of the locker rooms.

イベントに参加したい人は、お役所または新座国際センターで申し込みください。研究の定員が満了の場合は、参加申し込みを締め切ります。

Interested participants must register in advance at either IREKUKU or Niza International Office. Advanced sign-up will be ended immediately once the Office receives the maximum number of registrations.

問い合わせ CONTACTS
国際センター(International Office)
国際センター(IEKUKU) 三井(IEKUKU)
国際センター(Niza) 三井(Nizakawa)
E-mail: glocalounge@rikkyo.ac.jp

2015 年度に開催した剣道体験のチラシ

2018年度は、視察からの帰国後間もなくして、韓国にある延世大学職員の方の本学訪問に際してのサポートに携わった。このように、研修後もさまざまな形で経験を積んでいく。

前述のようなイベントに携わる機会もあるが、私は日々の仕事においての意識改革もそれらと同様に大切であり、この研修で学んだ成果だと考える。研修の成果をはっきりとした形として現すのは、正直難しい。現に、私は図書館での担当業務を通して国際的と言える仕事に携わることはほぼない。しかし参加者間のチームワークを生かし、他部署の参加者から海外からのゲストが図書館を見学したいという依頼があったときには取り継ぎを行い、人出が足りないときには担当するなど積極的にやっている。そして、参加者間のネットワークを生かして情報交換をすることにより、通常業務においても以前より視野を広く持ち進められるようになった。

国際化は全学的に協力して進めるものであり、誰にとっても決して無関係なことではない。例えば他部署からの依頼を受けたとき、それが自部署としては大変であっても立教のためになるならできることを検討し、提案すること。□で言うのは簡単だが、実際に行うのは難しい。しかし、一人ひとりが少し意識を変えることで、国際化を進める一助になると信じている。

本研修は決して海外の大学等を視察し、英語力を向上させるだけのものではなかった。それらを通して自らが働く場所である立教のことを改めて知り、できることを考え、一歩を踏み出すきっかけであった。そして、その一歩が積み重なって立教の魅力を強化し、そこに所属する学生、教職員、そして多くの関係者の方の人生を輝かせる。そのような働きができるよう、たとえ小さくても今日も一歩を進めていきたい。

末筆となるが、本研修は人事課や受入先、関連部署や参加者の所属部署の方など多くの方によって支えられている。その支えに心からの感謝を表して、本稿を終わりとしたい。

たかはし あゆみ

<参考資料>

- 1) 原正福、2014、「魅力ある大学をつくる－その担い手として」、『大学時報』、No.359、80-85
- 2) 原正福、2016、「短期海外視察研修－Broaden our horizons－立教大学」、『大学時報』、No.371、108-109